



## 田んぼの感触に歓声

6月下旬から7月上旬にかけて、市内の小中学校で田植え教室が行われました。東宮永小学校では6月28日に実施。5年生29人は、はだしで田んぼに入ると、「冷たい」「気持ちいい」と泥の感触に歓声を上げていました。地元農家の指導で、児童たちは腕前はめきめきと上達。児童の1人は「思ったより上手にできた」と泥だらけの体操服で話してくれました。

| CONTENTS          | ページ |
|-------------------|-----|
| 市職員募集、市営住宅入居者募集ほか | 2-3 |
| 8月から国保の保険証が変更ほか   | 4-5 |
| お知らせ掲示板           | 6-7 |
| 人権・同和教育シリーズ       | 8   |

●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1  
●編集 総務部企画課広報広聴係（直通） ☎0944-77-8425 FAX74-5520  
●URL <https://www.city.yanagawa.lukuoka.jp/> ●e-mail [kohin@city.yanagawa.lj.jp](mailto:kohin@city.yanagawa.lj.jp)

「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人が読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。

# 人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。



蒲池中学校1年  
橋本 愛悠

## 相手の立場にたって

小学生の頃、担任の先生に「ひとりぼっちの人をつくらないうちにしましよ」と言われて以来、ひとりぼっちでいる人を見かけると意識的にその人の近くに行つて声掛けをしています。しかし、最近では、困っている人たちが目に見えない形で存在します。それはインターネット（以下ネット）の世界です。今、さまざまな人がネットを使っている時代です。そこで私はネットにおける人権について考えました。

みんな、それが悪いことだと分かってはいるはずなのに、いまだになくなりません。その理由は、「顔が見えないのだから、何を言っても誰が言ったか分からないからいいだろう」という自分勝手な考えのせいです。ネットの向こう側にはたくさんの人たちがいるので、束になつてかかってこられたら、やられた側は、誰かも分からない多くの人に批判され、苦しんでまいります。

好きな芸能人やユーチューバーに対する心無い書き込みを読むと悲しくなります。いちファンがそう感じるのだから、本人たちはどれほど傷ついているのか想像もつきませぬ。なぜなら、私は、心をえぐられるような大きなじめにあつたことがないからです。そこで私は、もしネットで意地悪な書き込みをされたときに自分がどうなるのか、またどうするか考えてみました。

まず、ショックで書き込んで、家から出たくなくなり、誰とも会いたくなくなると思っています。もしかしたら、このままでは、自分が駄目になるかもしれないと思い、きつと誰かに相談したいと思うでしょう。その誰かが、誰なのかまだ見つかりません。しかし、何があつても、誰かに相談するといふ勇気だけは持つておきたいと思えます。

人権は、生まれたときから皆平等にあり、それは誰も侵すことができません。一人一人が相手への意識を持たなければならぬと思います。

私はこれからも「今から発する言葉が相手を苦しめていないか」「自分の言葉に責任を持つていきたいと思うのと同じに、この思いを皆さんにもぜひ、考えてもらいたいと思っています。」

**【先生からの一言】**  
表現の自由は責任と表裏一体の関係です。この作文は、ネットの世界においても自分の発した言葉が読む人にとどのような影響を与えるかを豊かに想像し、責任を持って表現することの大切さを伝えてくれています。